短 報

マメ科ソラマメ属の新帰化植物，ヒナカラスノエンドウ（新称）

（勝山輝男[a]・佐々木あや子[b]・いがりまさし[c]）
Teruo KATSUYAMA[a], Ayako SASAKI[b] and Masashi IGARI[c]: *Vicia lathyroides* L. (Leguminosae), Naturalized in Japan

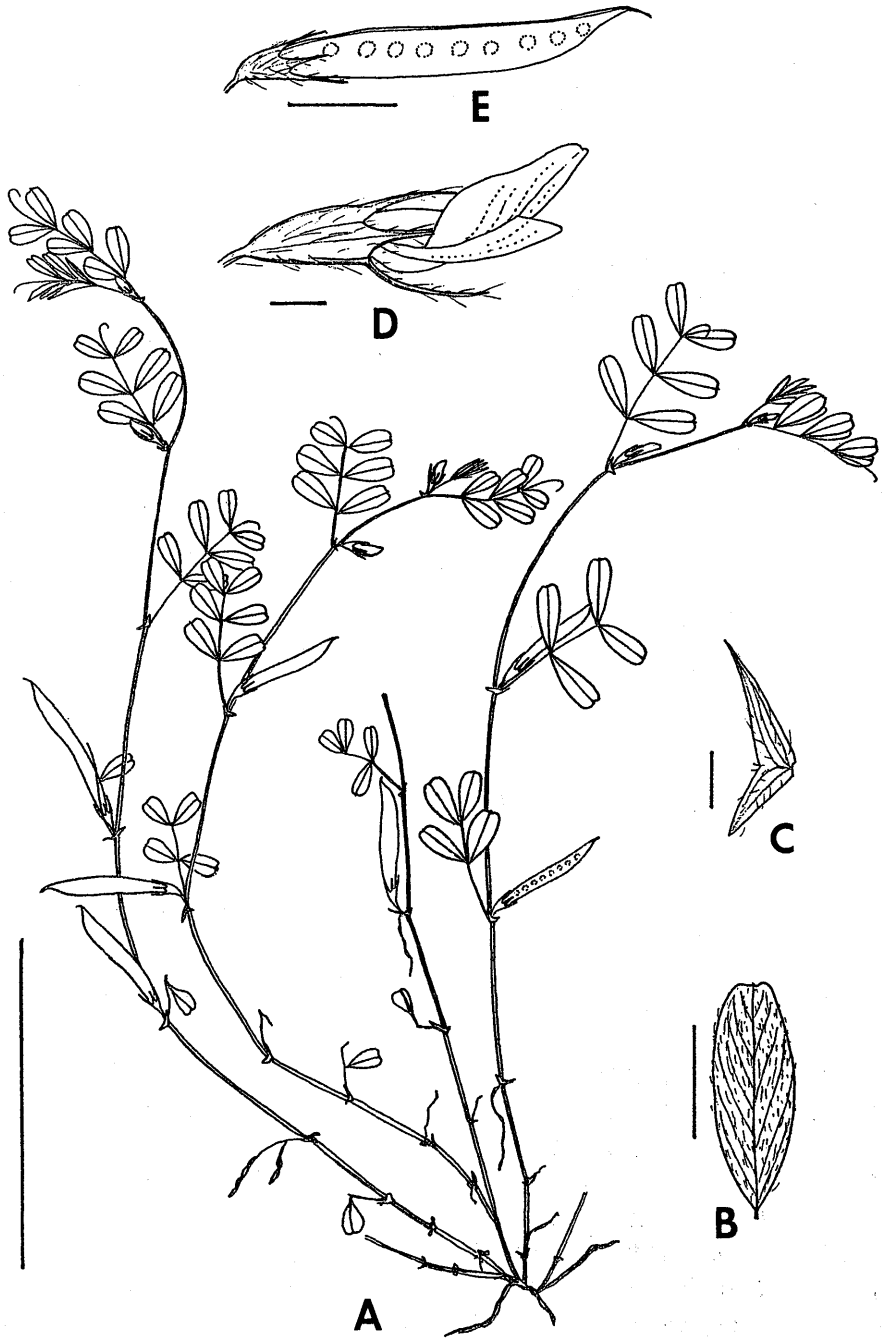

Fig. 1. *Vicia lathyroides*. A: whole plant; B: leaflet; C: stipule; D: flower; E: legume. Scales: A 5 cm; B, E 5 mm; C, D 1 mm.

2000年5月新潟空港で，筆者の一人いがりがカラスノエンドウを小さくしたようなソラマメ属（*Vicia* L.）の見慣れない植物を見つけた．新しい帰化植物と考え調べたところ，ヨーロッパ，コーカサス，小アジア，北アフリカに広く分布し，北アメリカに帰化している *Vicia lathyroides* L. であることが判明した．*V. lathyroides* は原産地では，海岸の砂地，内陸の荒れ地，乾いた草地などに生育しているという．新潟空港では駐車場の分離帯の芝生に多数が生育していた．緑化用の牧草種子に混入して持ち込まれたものと推定する．生育状況から考えて，今後，帰化植物として定着する可能性があると考える．和名をヒナカラスノエンドウと新称し，日本新産の帰化植物として報告する．

Vicia lathyroides L., Sp. Pl. 736 (1753); Ball in Tutin & al., Fl. Europ. **2**: 135 (1968); Fedtsch. in Kom., Fl. URSS **13**: 457 (1948); Stace, New Fl. British Isles ed. 2. 412 (1997); Gleason & Cronquist, Manual of Vasc. Pl. Northeast. U. S. ed. 2. 291 (1991).

1年草．全草に軟毛がある．茎は斜上または直立し，高さ5–20 cm．葉は互生し長さ1.5–2.5 cm，5–10 mmの柄があり，2–3対の小葉を持つ偶数羽状複葉で，葉軸の先端は分枝しない巻きひげになるが，ときに巻きひげのないものもある．小葉は倒卵形から長楕円形で，長さ5–10 mm，幅3–5 mm，先端はやや凹み微突状．托葉は小さく，長三角形または2裂して先端は尖り，腺点はない．花は葉えきに1個ずつつき，1.5 mmほどの小花柄があり，淡紫色で長さ6–8 mm．萼は長さ4–5 mm，先は5裂し，萼歯は線形で先は尖り，萼筒とほぼ同長．豆果は広線形で無毛，長さ1.4–2.4 cm，幅0.3–0.4 cm，8–10種子を入れる．種子は円盤状で直径約2 mm．標本：新潟県新潟市新潟空港（いがりまさし・中山博子，May 7, 2000, KPM–NA0119308）．

（[a]神奈川県立生命の星・地球博物館，
[b]神奈川県秦野市[redacted]，
[c]豊橋市[redacted]，
[a]Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, Iryuda 499, Odawara, Kanagawa 250-0031,
[b][redacted] Hadano, Kanagawa 257-[redacted],
[c][redacted]
Toyohashi, Aichi 440-[redacted]）

アジサイの新変種ナンゴクヤマアジサイ（山崎　敬）
Takasi YAMAZAKI: A New Variety of *Hydrangea serrata* (Thunb.) Ser.

鹿児島県のヤマアジサイの類は、保育社の現色日本植物図鑑草本編（中）（1971）や，平凡社の日本の野生植物木本I（1989）では，エゾアジサイ *H. serrata* (Thunb.) Ser. var. *megacarpa* (Ohwi) H.Ohba として扱われている．葉が大きくて，鋸歯が顕著であることはエゾアジサイに似ている．しかし，葉の先が急に細くなり，先端が長くとがることは，エゾアジサイよりヤマアジサイに縁のあることを示している．エゾアジサイは北九州にもあるとされることがあるが，北九州のものはヤマアジサイの葉の広い個体であって，エゾアジサイとし得るものは鳥取県の大山あたりが西限と見られる．鹿児島県のものは宮崎県に分布するヒュウガアジサイ *H. serrata* var. *minamitanii* H.Ohba と葉の形はよく似ている．しかし，鹿児島県のものは，葉の裏面の主脈と側脈上に曲がった伏毛がある他に，裏面の細脈上全体に短い毛が散生するのに対し，ヒュウガアジサイは葉の裏面の主脈とそこから分岐する側脈との間に密生した毛の束があり，他はほとんど無毛か側脈に毛が散生するだけなので鹿児島県のものと異なる．

ヤマアジサイの葉の裏面の毛の生え方は様々である．主脈と側脈の上に粗い毛があるのが一般であるが，ときに細脈上にも毛が散生するものもある．したがって北九州の葉の広いヤマアジサイと鹿児島県のものとは類似する．